

勝つ手より負けない手

●負けなければ勝つチャンスは何度でも来る！

将棋はまず攻めたくなります。でも攻めにはリスクもつきまとう。攻めを切らされたり、駒を渡したり。攻めた反動で反撃されてそのまま蒔けてしまうこともあります。将棋は負けなければ将棋は長引きますが、攻めるチャンスは何度でも来ます。というわけで攻めよりも守りを重視しましょう。

●視野を広く持つ



右の図では現時点で先手の桂得なので▲1一飛成や▲6四桂で勝てそうに思います。しかし△2九飛成で桂馬を取られながらと金を作られる手が大きくむしろ後手に手が多い展開になる。ここは▲3八桂と打つのが気づきにくい好手。以下△2七飛成に▲1六角と打てば飛車を召し捕ることが出来て安全勝ち！負けない指し方の典型です。

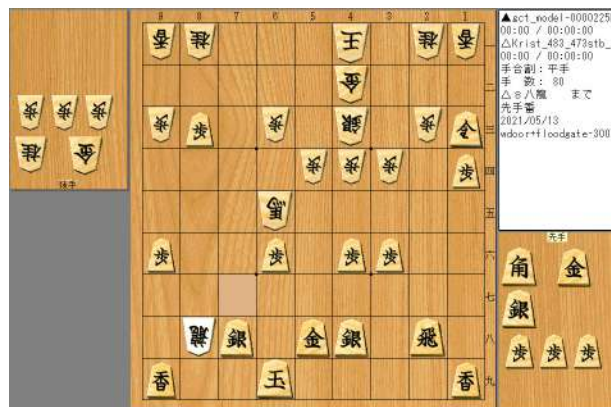
●勝たんと打つべからず。負けじと打つべきなり

兼好法師の書いた徒然草の第百十段に「勝たんと打つべからず。負けじと打つべきなり。いづれの手か疾く負けぬべきと案じて、その手を使はずして、一目なりともおそく負まくなき手につくべし」というのがあります。

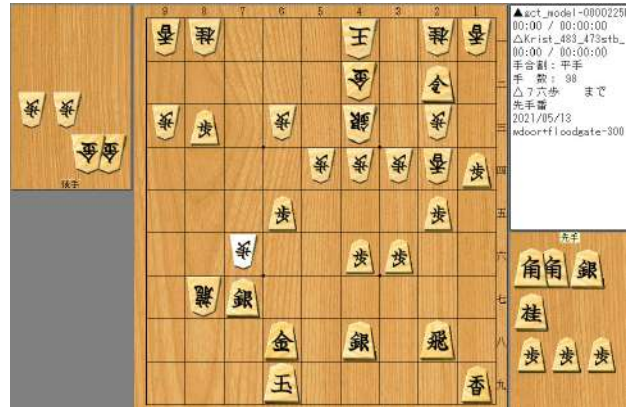
双六（すごろく）の名人に勝つ秘訣をきいたところ、上の言葉を言われたとのことですが、双六？サイコロ振って駒を進めるまったくの運ゲーではないのでしょうか？現代の双六とは違ったかもしれません。

●練習問題

第1問



第2問



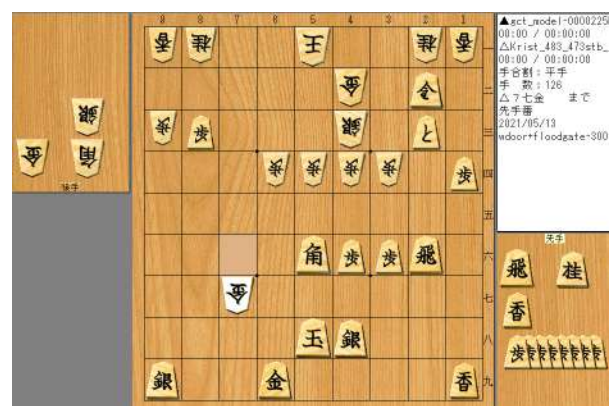
第3問



第4問



第5問



第6問

